

「イヤだ!」と言う事で、この場の雰囲気や壊してしまうのでは?というお人好しな気づかいなど、必要ありません。あなたは「イヤだ!」と思った自分を気づかう必要があります。

No!!

いやだ



- そんな時、話し合う、という手もあります。お互いの意見や認識が違っていた時。「イヤだ」と思った時。「イヤだ」と言われた時。話し合うという手もあります。その時、第三者である映画祭実行委員が立ち会うことで、冷静な話し合いがしやすくなるかもしれません。お近くの実行委員まで声をかけてください。



- でも「イヤだ」と言えない時もある。すぐにその場で「イヤだ」と声を上げられないこともあると思います。それは特に相手が力を持っている(と感じた)時に多いです。後日、実行委員に「隣の席の人とこんなことがあってイヤだった」などと言って頂いても構いません。実行委員会として出来ることは原則として映画祭会場での対応だけです。事後の場合ご意見をお聞きするだけになると思いますが、頂いたご意見は次回以降の映画祭の参考にさせていただきます。



●実行委員会の責任。

映画祭の会場で何かあった時、お近くの実行委員まで言ってもらえれば、当事者同士の話に立ち会います。また、主催者である実行委員会は、イベントの運営者なので、会場をしきったりする意味で力を持っていますが、実行委員会やスタッフも、人間なので、間違ったことをするかもしれません。実行委員会のやり方などに関して、ご意見などあれば、遠慮なくお寄せ下さい。

●何なの?この文章は。

この文章の背景をご説明します。私たち映画祭実行委員会は、ただ単に映画を上映するだけでなく、映画祭の会場にいる「みんな」にとって楽しい映画祭を創りたいと考えています。また、映画祭会場で最も力を持っている実行委員会は、映画祭を「みんな」が楽しめるものにするよう努力する責任があると思います。「みんな」で共にいるために、つい忘れがちな大事なことを確認するために、実行委員会でこの文章を作り配布しています。(趣旨としては、その場で一番責任のある立場のものが、その場でセクハラなどの問題が起きないように努力する義務がある、ということ。「男女雇用機会均等法」が「セクハラ対策の措置」を事業主に義務化し、企業や大学などが「セクハラガイドライン」などを創っているのと同趣旨のものです)

●ご意見窓口(2006年8月末まで)

以下の連絡先にご連絡頂ければ、担当者の責任で実行委員会の会議で議題として取り上げ、対応をします。また、誰でも映画祭実行委員会のミーティングに参加して、意見を言い、提案することができますので、お気軽にご参加下さい。

映画祭をもっと楽しく、もっと楽しむために、みなさんのご意見、ご参加、お待ちしております★

info@k
volunt
booth
press@
ticket@
電話の

連絡先は担当者
から、ため、
削除しています。